

Bチャレ チャレンジ部門 実績報告書

団体名	目白台の家再生プロジェクトチーム□	作成日	3月 24日
企画名	おうちひらき！地域の方に目白台の家を知ってもらい、地域の課題を知る会		
あなたが考える文京区の課題	<p>当団体が考える文京区の課題は二つあり、一つは「地域での活動の場所の減少や、活動自体の減少による地域住民の居場所や交流の減少と孤立」で、もう一つは「区や地域の資産とも言える建築の取り壊しによる地域文化・歴史の衰退」です。前者については、これまで町会長やワークショップで上がった地域の人の「子どもと交流し学べる寺子屋みたいな場所ができてほしい」という期待や、「昔のようにご近所さんと気軽に話せる居場所が欲しい」という声から見えてきた課題です。実際に、台地の上の閑静な住宅街とも言える目白台では、塀などによる住宅の閉鎖性の高さや住人に解放されるような場所は少ないことからこのような課題が生まれていると言えます。</p> <p>一方で、後者の課題では、目白台、文京区に関わり始めてから、知る中でもすでに5件以上の貴重で歴史ある住宅や建築が解体され、文京区の歴史や文化は記録のみとなり途絶えてしまっていることを経験し課題として感じております。この状況に対して、歴史文化的資源の発信や活用を通して区や地域の人々に重要な資産であり、残すべきものなのだという認識を持っていただくことが、今後の区や地域として歴史や文化を継承していくための重要な課題だと言えます。</p> <p>この二つの課題に、地域の中で築100年以上の歴史や文化を蓄積し、昔の建物ならではの多様な居場所を作ることができるという特徴を持った住宅を活用しながらアプローチすることで、この歴史を持った建築で交流を行う意義や、歴史文化や建築を未来に継承すること重要さを発信していく、つまりは、地域にある歴史文化的資源を活用、発信しながら地域の人々の交流減少や孤立などの社会問題を解決していくことが、文京区や目白台地域の課題だと考えます。</p>		
実施期間	9月から2月までを事業実施期間とし、おうちひらきは、11月2日～11月4日に実施しました。	実施場所	目白台の家（目白台3-15-27）
対象者	主に目白台に住む全年齢層を対象としますが、その中でも地域で自分の特技（着付けやお茶、勉強など）を活かしてワークショップなどの活動をしたい方や、気軽に人と話すことのできる場所、ゆっくりできる居場所を求めている方、地域のことをもっと知りたい、考えたい方、そして我々と共に活動をしてみたいと考えてくださる方を対象としました。また、今回は古民家を活用した活動を行っているために、古民家自体に興味のある方や、建築を学ぶ学生なども対象としました。		
参加者の募集方法	<p>主に、チラシ配りや張り出しに加え、知人への声掛け、InstagramやX（旧Twitter）、FacebookといったSNSで告知を行いました。特にチラシについては、地域住民の方へ情報を届けすることを目的として活動日に通りかかった方への配布や近隣町会（高田老松町会、目白台雑司ヶ谷町会）へアプローチを行い、町内掲示板へのチラシの掲載をお願いしました。</p> <p>また、SNSでは媒体利用者の多い学生をはじめとした地域再生に興味のある方や古民家に興味のある方、知人、友人にも発信できるように募集をしました。</p> <p>そのほかには、目白台の家の前の掲示板では、チラシに併せて、おいまつや通信を掲示し、通りかかった方の興味関心を引くと同時に、積極的にお声がけいただき、当日の飛び入り募集も行いました。なお、成果としては、お家前の掲示板とお声がけが地域住民の方にお越しいただく一番良い募集方法となっていました。</p>		

実施した事業内容	<p>事業期間は、今年度の活動も含めた、11月から2月としますが、メインイベントとなる「おうちひらき」は、都が設定する文化財ウィークの期間の内、11月2日から4日の日中に現在登録文化財申請中の「目白台の家」で開催しました。加えて、「おうちひらき」で目白台の家を知ってくださった方を対象に「ゆずがり」（ゆず収穫とバスボム作りワークショップ）を12月に開催しました。その後には、今回の「おうちひらき」に来場いただいた方や近隣の方へのご報告として、「おうちひらき」の内容や「ゆずがり」、また今後の活動予定などを掲載した「おいまつや通信」3号を2025年3月に発行しました。</p> <p>開催までの準備スケジュールは以下の通りです。</p> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none">・展示に向けて庭とお家の手入れ・オーナーさんと日程、企画内容、お家の公開範囲の調整・チラシ、おいまつや通信、展示物を順次作成 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none">・オーナーさんと展示配置や準備の調整・展示配置案、展示物の作成・ワークショップの企画案の作成・チラシの印刷と広報の開始 <p>(広報については、近隣町会の高田老松町会や目白台雑司ヶ谷町会、筑波大学付属盲学校にアポイントをとり、町内看板への掲示、当団体のSNSにて告知を行った)</p> <ul style="list-style-type: none">・当日のスタッフの募集やシフト内容の作成など・近隣で活動されている「ちんじゅの森 ほぐほぐ」さんへのご挨拶と告知のお願い・展示パネル内容の作成・パンフレットの作成・おいまつや通信1号の印刷と2号の作成・目白台の家で掃除と展示の配置確認・スタッフ、参加者用缶バッジの作成 <p>10月31日～11月1日</p> <ul style="list-style-type: none">・再度告知と展示の現地設営・パンフレットの印刷・イベント時の流れ確認・展示パネルの印刷、パネル化 <p>11月</p> <p>【11月2日～11月4日 「おうちひらき」の本番】</p> <ul style="list-style-type: none">・「おうちひらき」の反省・「ゆずがり」イベント、ワークショップの準備 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none">・「ゆずがり」イベント、ワークショップを開催！ <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none">・「おいまつや通信」3号の作成・今後の組織化に向けた調整・高田老松町会に入会 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none">・「おいまつや通信」3号の発行

実施した事業内容

「おうちひらき」の具体的な実施概要と企画内容は以下に記載します。

「おうちひらき」概要

実施期間

11月2日土曜日 13:00-17:00 (半日)

11月3日日曜日 10:30-17:00 (全日)

11月4日月曜祝日 10:30-13:00 (半日)

実施概要

大正時代から地域に残る住宅建築である「目白台の家」を知っていただく、また、地域の方のこの住宅の利活用に関するニーズや思いを聞くことを目的としてのイベント「おうちひらき」を開催した。内容としては、地域の方や、建築関係者の方への見学や、地域・建築・生活史の展示、今後のこの住宅の使い方を議論するワークショップの開催、居場所としての「喫茶おいまつ」の開店などを行った。

・初日、2日目の午後には、住宅歴史ミニガイドツアーや住宅活用を考える会（ワークショップ）を開催しました。ガイドツアーでは、オーナーである池田さんに加え、初日はこれまでお力添えいただいている建築家で日本建築に精通する伊郷氏、2日目はこれまでともに活動を行っている高道を建築の特徴の説明者に据えたツアーを行い、大正時代から継承されてきた「目白台の家」の特徴や実際の生活の記憶を参加いただいたみなさまに発信していきました。

また、ワークショップでは、「目白台の家」の平面図を大判で印刷した上に、付箋や書き込みを行いながら今後の活用の仕方を地域住人や利活用に興味のある方とともに話し合いを行い、今後の活用案などの作成を行いました。

このような、ツアーやワークショップを通し、参加者へのお家の歴史・文化発信に加え、地域住人同士や当団体のメンバーとの交流、今後地域に「目白台の家」を開き、活用をする際の意見収集を行いました。（ツアー参加者 初日：10人程度 2日目：15人-20人程度 、ワークショップ参加者 初日：9人 2日目：9人）

・お家の公開では、期間中は常に家内開放し自由に空間内を見学いただくだけでなく、スタッフを常駐させ、ワークショップに参加できなかった方にも今後の利活用の目的やお家や地域の歴史の説明をしつつ、活用の要望などを聞けるような体制を整えました。併せて、紙面でのアンケートを実施し、89の方にご回答いただきました。

・会期中には、見学者同士や常駐するプロジェクトメンバーとの話のきっかけ作りや、生活や文化継承を目的として、各部屋で生活時の様子を小さなキャプションに記載し展示したもの（ふきだしプロジェクト）や、歴史や地域の特徴を掲載したパネルを展示しました。また、これまでの活動の理解を深める目的や、今後の活動への地域の方の参加への足がかりとして「活動紹介ルーム」を設け、これまでの活動をまとめた成果物や発刊物（アニユアルレポートやおいまつや通信）を配布し、これまでの活動を説明、発信していました。

その具体的な効果として、これまでの活動を冊子状にまとめたアニユアルレポートの利用は、我々の活動や地域の歴史調査を行ったその成果を知っていただくことができ、「こんな活動していたのか」、「こんな団体があったなんて知らなかった。これからも頑張ってくださいね」とお声をいただいた。

実施した事業内容	<p>また、展示期間前に発刊・配布する、新聞形式で読みやすく仕上げた「おいまつや通信」の1号は、その掲載内容である活用案（メンバーが立案）をワークショップ時に一例として提案しながら話を広げる手がかりとなり、2号では、広報チラシに掲載しきれなかったより詳細な「おうちひらき」の展示や家の紹介を盛り込んだ紙面として配布したこと、スタッフと来訪者の会話の手がかりになりました。</p> <p>このように、成果物や発刊物の展示や配布によって当団体の活動を理解してもらうことで、今後の活動を地域の皆様により安心感を持って共に行えるように努めました。また、活動の中で見えてきた地域や住宅の歴史を掲載したパネル、模型などを展示することで、交流を生み、孤立防止や地域の繋がりの強化、地域の歴史文化の継承を試みました。</p> <ul style="list-style-type: none">近隣盲学校の学生の方（引率の先生もあり）にもご来場いただき、特別ツアーを実施しました。ツアーの中では、日本建築特有の建築の質感や展示の一つであった古道具などに実際に触れていただき、物珍しい空間や文化を知っていたくことを心がけました。 (ツアーガイド 初日：高道 2日目：佐々木弘)多くの部屋や庭が目白台の家には存在するので、今後の自由な使い方の施策のためにも、子供や高齢者の方のお話場所や休息所としての場所の提供と、その場での温かい飲み物などの簡単な提供を行いました。具体的に、応接室で「喫茶おいまつ」を独自に開店し、豆から引いたコーヒーとジュース、簡単なお菓子の提供を行いました（店主 細田）。また、四畳半は折り紙を置くことや人々の談笑の場として提供し、時には子供たちが折り紙を折り、また別の時には初対面の人々やグループの方々がお話をするなど交流が可能な場となりました。さらに、庭では季節がら小柚子がなっていたので、実際に収穫していただく催しなども行い、さまざまな年齢、境遇の方が一つの家の中で交流できるようなイベントとなりました。 <p>今後は、「おうちひらき」によって集まった声や意見などをもとにイベントの開催や居場所としての家の活用を企画予定。特に2025年の一年間には、当団体のNPO、または法人化によって持続的な運営体制を整えながら、本企画で交流、繋がりを持った地域住民の方を招いた持ち出し企画のワークショップ（今昔の街の話を聞く会や、古本市、お茶会、着物の着付け教室、和食のお料理会など）や、地域住民の方から伺ったご要望などをもとにした企画の開催、子供勉強スペースや地域の休憩スペースとしての開放を週に二、三日ほどしていく予定です。</p> <p>今回の「おうちひらき」によって、当団体やその活動を知っていただくとともに、文京区目白台にこのような貴重な住宅が未だ存在しているということを共有することができました。これをきっかけに地域の方々と関わりながら、地域の歴史文化の資産とも言える住宅で居場所、関係づくりを行うことで私共が思う課題解決に取り組んでまいります。</p>
事業実施に当たって実際に協力のあった団体・個人	<ul style="list-style-type: none">近隣住民の方（告知先のご紹介や実際のご来場）自由建築研究所（広報先のご紹介、伊郷氏による建築の特徴レクチャーなどへのご協力）近隣の町会と大学（チラシの掲示や配布、展示準備やスタッフとしての協力）文京建築会ユース、文京建物応援団、流動商店（広報のご協力や実際のご来場）筑波大学附属視覚特別支援学校（広報のご協力や実際のご来場）

収入内訳 «結果»	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	Bチャレ助成金	¥ 194,692	
	団体からの持ち出し	¥ 58,890	
支出内訳 «結果»	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	チラシ印刷費（広告宣伝費）	¥ 11,011	チラシ200部（7640円、地域、町会、各所への配布用） チラシ防水加工用フィルム（3371円）
	展示パネル材料、展示用備品 (展示用備品・消耗品)	¥ 67,325	パネル代(38900円)、ロール紙代 (17787円)、 備品・消耗品（スプレー代、カッターやノリ、掃除用具などの消耗品6388円）、 ネームバッジ作成費（4250円）
	当日の来訪者用備品費	¥ 12,126	庭利用の下足、館内利用のスリッパ、アンケート用のボールペン、子供用の色鉛筆や自由帳、折り紙、また休憩所でお出しするお茶やコーヒー、軽いお菓子などの費用
	展示期間の配布物作成費① おいまつや通信（創刊号、2号）	¥ 79,000	おいまつや通信 500部 * 2号分（79,000円=39,500円*2号）（おうち開きの内容の詳細な紹介と、今後の利活用ワークショップを考える際の資料）
	展示期間の配布物作成費② 展示中の館内マップ	¥ 10,230	館内マップ 200部
	追加費用：レクリエーション保険料、カメラマンへの謝金	¥ 15,000	怪我などに備えたイベント保険と、イベントの記録を行なっていただいたカメラマンへの謝金
当団体持ち出しからの支出（おいまつや通信第三号、ラミネーター、おうちひらきで聞いた声からのゆずがりワークショップの消耗品、イベント保険（保険料））	¥ 58,890	おいまつや通信第三号 39,500円 ラミネーター 13,200円 おうちひらきに続く、ゆずがりワークショップ費 3,190円 イベント保険	
助成交付額/支出総額	194,692 / 250,582		

	<p>1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは10点満点中、何点ですか。その理由も含めて記載してください</p> <p>今回の達成度合としては、7/10点をつけます。</p> <p>その内訳は、展示や制作物の成果（準備の流れや制作物の作成状況、展示の充実性）=2.5点/5点、会期中の動き（誘導や説明対応、ワークショップの成果、集客率など）=4.5/5点としています。</p> <p>まず、展示の成果への評価について、この点数になったのには、準備不足によって制作物の制作状況が芳しくないこと、また、展示の充実性（特にパネル）も低かったことを理由としてこの評価としました。準備不足は、今回初めてだったということもありますが、準備自体に2ヶ月前と遅い時期に取り掛かったことに始まり、フライヤーやおいまつや通信の作成の遅延、アニュアルレポート発行の廃止、展示パネルのクオリティの低さなどに影響を及ぼしています。そしてこれらは、地域やターゲットの方々、協力者の方々への告知の遅延、そもそも取り組みをお伝えするアニュアルレポートへの撤廃などに繋がり、想定していた地域の方々への取り組みやお家の認知していただくということへとマイナスの影響を与えていると言わざるを得ないため、半分の点数をつけています。</p> <p>ただ一方で、会期中の成果として、実際の集客数やワークショップ内での意見の獲得、SNSのフォロワー数の増加（1.5倍ほどに！）、お越しいただいた方とのお話やアンケート内での反応をいただきましたなど、さまざまな成果をあげられたと言えます。具体的には、目に見える成果として、公開時の集客は三日間（初日、最終日は半日）の総計で252人！ワークショップの参加者も二日間合計で18人となり、目白台の家の今後の活用案などさまざまな意見をいただきました。その中には、もし実践するならぜひ参加したいという方や、地域の方で「もっと高齢男性が集まる居場所を作ってほしい」という今後の地域や活動に興味のある方と今後の未来を捉えることができました。</p> <p>また、今回、歴史建築に精通している方や、大学、近隣住民の方々や、盲学校などの多くの方々にご協力、ご来場いただいたことで、「目白台の家」を認知いただくだけでなく、地域の高齢の方同士で「昔はこういう家がたくさんありましたね」という話から昔話を話し、盲学校の学生さんには、昔のお家の質感や暖かさ、構造などを実際に触れて知っていました。加えて、小さなお子様には「目白台の家」の庭の木の実収穫や、折り紙遊び、模型遊びなどさまざまな面で、地域の歴史や文化を知っていただけたこと、また交流することを体感していただけたことができました。ただ一点、自分が行ったワークショップの進行の悪さが目立ち0.5点と減点しましたが、それ以外の点からは非常に良い成果が出たということができます。</p> <p>以上のような点から、会期中の成果について4.5という高い点数をつけました。</p> <p>2.企画を行なってみて気付いたこと、改めて確認できたことを記入してください(箇条書きでも可)</p> <p>展示をしての気付き（話を聞いての気付き）</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の方以外では、SNSでの告知によりイベントに足を運んでくださり、その多くが古民家に興味を持っている方であったこと・子供連れ層やご高齢者層、また建築関係者に特に多くの来場者が見られたい一方で、地域の小中学生層は比較的少ない印象を持った・訪れてくださった皆さんに、ぜひお家を活用していろいろなイベントを開催してほしいと思ってくださっていること、また楽しみにしてくださっているということ・地域の歴史文化として、もともと武家屋敷が多い街だったということをご存知の方も多かったが、今回細かな歴史を紹介したことで、地域の歴史を知ることへの楽しみを覚えていただけていたことが、継承という面で大切なことだと確認できた
--	---

企画の成果**新たに発見したこと**

- ・ご近所のご高齢者層の方々は、よく交流を行っていたということ（具体的にはオーナーさんの父母や、叔母様と交流しているという方がいらした）
- ・多くの方々が地域にある「目白台の家」に興味を持ち、ぜひ中に入ってみたいと思っていた点や、これに対して、今回実際に入れてよかったですなど感じてくれていたことを知った

展示運営をしての気付き

- ・展示の準備期間は、オーナーさんとの調整、企画案、チラシの作成を行い、最低2ヶ月前には告知を行う必要があり、展示準備自体も1ヶ月では非常に難しいと気付いた
- ・お子さんは、折り紙などの遊びや模型の展示などに興味津々で体験やビジュアルを意識した展示を行うと良いと気付いた

3.本企画の開始時に設定した課題は、実際に“文京区の課題”だったことが確認できましたか

本企画を通してどのように検証を行ったかを記載してください（分析や考察など）

当団体が考えていた文京区の課題は、「地域での活動の場所の減少や、活動自体の減少による地域住民の居場所や交流の減少と孤立」と「区や地域の資産とも言える建築の取り壊しによる地域文化・歴史の衰退」でした。これらについては、準備段階、イベント時の協力者の団体様や地域の方との対話でその実情を伺いました。まず、「地域での活動の場所の減少や、活動自体の減少による地域住民の居場所や交流の減少と孤立」について、地域の活動の場所は現状、区の施設などで存在はしているものの、多くは予約が埋まり、活動したくともなかなか活動ができないという話がありました。また、予約のためには数ヶ月前より企画などを考えていないといけず、それが大変だという悩みも挙がっていました。また、住民の居場所・交流の減少と孤立に関しては、イベントやワークショップ時に多くの来場者の方のお話より、「昔はよく通りがかりのご近所さんと話したりしていた」、「旦那を見ていると毎日が退屈そうで、仕事を退職した男性の方が、家で孤立しているんじゃないかなと思うんです」、「ただ、交流の場所を提供するだけでなく、そのコンテンツや内容も大事」などの話が上がっており、活動の場所がありながらそのキャバシティが足りていないことや、実際に交流ができる場所だけでなく、ターゲットに寄り添ったコンテンツや内容が必要だということを確認できました。一方、「区や地域の資産とも言える建築の取り壊しによる地域文化・歴史の衰退」に関しては、対話でももちろんだが、アンケート内でもその実情を確認することができました。特に、地域の方から「このお家になっていたけど、中に入ったらこんな感じなのか！」、「うちも昔はこんな感じの日本家屋だったんだけど、立て替えてしまって懐かしいなあ。大切に残してね。」という声を聞き、現在、目白台の家が地域の歴史を残していることや、それを保存すべき重要性が見えてきました。それ以外にもアンケート内では、「昔の人はこのような住宅に住んでいたということを知れてよかったです」、「保存することに敬意と感謝」とお言葉をいただくことや、目白台に住んでいて「地域の歴史を知れてよかったです」という声をいただくことができました。次第に建物が壊され、街の歴史が薄れしていく中で、このような活動を行うことによって、過去の日本・目白台での暮らしを継承していくことや、歴史自体を発信していくことの重要性を改めて確認できました。

4. 本企画を経て、今後の団体の活動の展望についてご記入ください

今後の展望として、継続して地域の交流の場所づくりや、文化歴史の継承を目的として、週2日程度のお家の開放や各月のイベントの企画を行っていければと考えています。具体的には、これまでお話を上がっていたような、寺子屋やお茶講座に加えて、今回ワークショップで上がった、古本市や読み聞かせ会、和建築を生かした和食創作と試食会などを行なっていく予定です。これらを通して、目白台地域の方々の交流や、心身の健康維持に寄与できればと考えております。また、今後もこの「おうちひらき」というイベントを年一,二回を目処に継続的に行っていきたいと考えており、これはアンケートを見ても分かる通り、このイベントを今後も開いてほしいという声が多く上がっているからです。この機会を大切に、我々の活動の報告に加え、今後行う継続的な地域の歴史調査研究から見られた地域の特徴を発信していくことで、文京区目白台という場所の地域性、文化歴史の継承を行なっていきます。

また、活動を行なっていく上で特に重要な「目白台の家」の維持継続に関わる費用確保を実現するために、施策や運営とそれを行う組織作りを行っていこうと考えています。具体的には、他団体がどのように運営しているのか、お話を伺いにいくことや、その事例をまとめ分析することで、より良い運営が行えるように組織づくりを行います。また、資金面についても、クラウドファンディングへの挑戦や助成金や補助金への申請を行なう予定です。

上記のようなことを実践していくことで、地域の居場所づくりと、歴史文化の継承を行なっていき、目白台の地域が歴史文化的に豊かで、また地域の老若男女の住民同士が交流し元気な地域づくりができると展望を抱いております。

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】

E-mail : fumikomu@bunsyakyo.or.jp

TEL : 03-3812-3044 (担当:近藤、田邊)